

調 査 票

町田市 若年者の自立に関する調査

－ 調査ご協力をお願い －

市民の皆様には、平素から市政にご協力とご理解を頂き深くお礼申し上げます。

近年、若年者の自立の問題が深刻な社会問題として取り上げられるようになってきました。ひきこもり*、ニート**など様々な課題や困難を抱える若年者が全国的に増加している、といわれています。

東京都の推計によると、15歳～34歳でひきこもりの状態にある方は、都内に少なくとも2万5千人以上いる、といわれています。

町田市保健所では、1999年度に思春期の精神専門医相談を始めて以来、ひきこもりの状態にあるご本人及びご家族に対して支援を行ってきました。10年以上にわたる支援の中で、問題が深刻化してからの相談が多いこと、相談が長期化しており対象者の年齢の幅が広いこと、保護者の高齢化が問題になっていること等、様々な状況が見えてきました。課題を抱えている若年者を支援していく環境づくりと共に、早期に支援につないでいく仕組みを構築することが必要です。

町田市では、「町田市新5ヵ年計画（2012年度～2016年度）」の重点事業として、「ひきこもり者支援体制推進事業」を位置づけ、今年度より重点的に取り組んでいます。

本調査は、市民の方の「若年者の自立」、とりわけ「ひきこもり」についての意識を把握し、今後の施策展開の基礎資料とするものです。本調査の対象として、市内にお住まいの2,000人の方を無作為に選びましたところ、あなたに回答をお願いすることとなりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、市民の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2012年9月

町田市長 石坂 丈一

【お問い合わせ先】

町田市いきいき健康部 保健対策課(町田市保健所)

〒194-0021 町田市中町2丁目13番3号

電話:042-722-7636 FAX:042-722-3249

e-mail:ikiiki080@city.machida.tokyo.jp

【アンケートに関するお願い、記入の要領など】

◇この調査票は、封筒に記載されている宛名の方ご本人がご回答ください。

◇回答は、統計処理に用いるもので、個人情報としての利用や、個人にご迷惑をおかけすることはありません。

(住所や氏名のご記入は必要ありません。)

◇ご記入後、調査票を同封の返信用封筒に入れて、2012年9月30日までに投函してください。切手を貼る必要はありません。

◇本調査でいう「若年者」「若者」とは、実際にひきこもりの相談が多い10歳代～40歳代の方を想定しています。

*「ひきこもり」…仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態をいう。(他者と関わらない形での外出をしている場合も含む)

**「ニート」…学校に通学せず、独身で、収入を伴う仕事をしていない15～34歳の個人(若年無業者)のうち、「就職したいが就職活動していない」または「就職したくない」者をいう。

はじめに、「若年者の自立」についてお尋ねします。

※本調査でいう「若年者」「若者」とは、10歳代～40歳代の方を想定しています。

問1 「最近、自立していない若年者が増えている」と言われていますが、そのことについてあなたはどのように感じますか。
(○は1つ)

1. そう思う 2. 少しそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない 5. どちらともいえない

問2 (問1で選んだ選択肢についてお答えください。)あなたが、そのように感じる理由は何ですか。自由にお書きください。

問3 あなたが重視する「自立した若者の条件」とは何ですか。下記の中から上位3項目を選び、枠の中に番号を書いてください。

1. 洗濯や掃除など、自分の身の回りのことが出来ること
2. 挨拶など、他の人と円滑なコミュニケーションがとれること
3. 自分の将来の目標があること
4. 自分のことは自分で決めて行動できること
5. 学校や職場等で、集団のルールを守りながら社会生活が送れること
6. 地域活動やボランティア活動に参加していること
7. 困難やトラブルに対して、自分で対処できること
8. 働いていること
9. 親から経済的に独立して生活していること
10. 家庭をもっていること
11. その他

あなたが重視する項目

--	--	--

「11.その他」を選んだ方 →具体的に()

問4 以下の(1)～(5)について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	少し そう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	どちらとも いえない
(1) 現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う。	1	2	3	4	5
(2) フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う。	1	2	3	4	5
(3) 仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う。	1	2	3	4	5
(4) 仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う。	1	2	3	4	5
(5) 若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う。 (相談窓口の設置や、職業訓練の機会づくりなど)	1	2	3	4	5

「ひきこもり」の認知について、お尋ねします。

問5 以下の(1)～(3)について、あなたはご存知ですか。どちらかに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	知っている	知らない
(1)「ひきこもり」という言葉をご存知ですか。	1	2
(2)「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか。	1	2
(3)ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか。	1	2

あなたやあなたの周りの方の状況について、お尋ねします。

問6 (1)～(2)について、あてはまることがありますか。

(1)自分自身、または家族の中に、問5(2)の「ひきこもり」の状態にあてはまる人がいる。(○は1つ)	1 はい	2 いいえ
(1)－1 「はい」の場合、ひきこもりの状態にある方の年齢について、お選びください。(複数いらっしゃる場合は、年齢について複数回答可。)	1. 小・中学生 2. 10歳代(中学校卒業後) 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代以上	
(2)近所の人や親戚・知人に、問5(2)の「ひきこもり」の状態にあてはまる人がいる。(○は1つ)	1 はい	2 いいえ
(2)－1 「はい」の場合、ひきこもりの状態にある方の現在の年齢について、お選びください。(複数いらっしゃる場合は、年齢について複数回答可。)	1. 小・中学生 2. 10歳代(中学校卒業後) 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代以上 7. 不明	

次に、「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援についてお尋ねします。

問7 以下の(1)～(15)について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	少し そう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	どちらと もいえな い
(1)「ひきこもり」の問題に関心がある。	1	2	3	4	5
(2)「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである。	1	2	3	4	5
(3)「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う。	1	2	3	4	5
(4)「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う。	1	2	3	4	5
(5)「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う。	1	2	3	4	5
(6)現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う。	1	2	3	4	5
(7)「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う。	1	2	3	4	5
(8)「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする。	1	2	3	4	5
(9)「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う。(相談体制の充実や、自立に向けた支援など)	1	2	3	4	5
(10)「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う。	1	2	3	4	5
(11)「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う。	1	2	3	4	5
(12)不登校*から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う。	1	2	3	4	5
(13)「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う。	1	2	3	4	5
(14)「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う。	1	2	3	4	5
(15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある(相談相手、情報提供、学習支援、NPO への寄附等)。	1	2	3	4	5

「不登校」*… 年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者」

次に、「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについてお尋ねします。

問8 あなたは、(1)～(12)についてご存知ですか。①で「知っている」と回答した方は、利用の状況についてもお答えください。(○は1つずつ)

A. 町田市が行っている相談支援機関やサービスについて

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
(1)町田市子ども家庭支援センター 子どもと家庭の問題に関する総合相談窓口です。0歳～18歳未満のお子さんとその家庭の相談に対応しています。	1	2	1	2
(2)町田市教育センター・教育相談 幼児から18歳までのお子さんの様々なご相談(学校に行きたがらない等)について、専門のカウンセラーが支援を行います。	1	2	1	2
(3)町田市内の学校の適応指導教室 心理的な要因により学校に行きにくい、または実際に登校できない状態にある児童に、学校復帰に向けた支援(社会性、協調性を育てるための体験的活動、学習内容の補充、生活リズムの調整等)を行います。	1	2	1	2
(4)民生委員・児童委員 地域の身近な相談相手として、安心して地域で暮らせるよう、社会福祉に関する相談・支援を行っています。	1	2	1	2
(5)町田市保健所 地区担当保健師が継続して相談をお受けし、必要に応じて家庭訪問の実施などを行います。来所相談や専門医相談は予約制です。	1	2	1	2

B. 国や東京都の相談支援機関やサービスについて

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
(6)東京都ひきこもりサポートネット メール(パソコン・携帯)及び電話を通じて、ひきこもりで悩む人たちの相談を受けています。本人に限らず、家族や友人などの関係者も相談できます。	1	2	1	2

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
(7)東京都の児童相談所 子どもに関する様々な相談（養護相談、保健相談、障がい相談、非行相談、育成相談等）に対応しています。	1	2	1	2
(8)東京都の精神保健福祉センター ひきこもり、家庭内暴力、摂食障害の問題や病気がどうか分からないが心配等のご相談に対応します。	1	2	1	2
(9)ハローワークの若年者支援 就職支援ナビゲーターによる就職活動の相談（就職活動の進め方、応募書類の作成、面接の受け方等）や、若者相談コーナー（45歳未満の方の就職活動相談）を設置して支援を行っています。	1	2	1	2
(10)地域若者サポートステーション 働くことについてさまざまな悩みを抱えている15歳～39歳くらいまでの若者が就労に向かえるよう、多様な支援サービスでサポートします。	1	2	1	2

C. その他のサービスについて

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
(11)病院・診療所 精神的な疾患かどうかの判断や状況に合わせたカウンセリングやデイケアなどの支援も実施することがあります。	1	2	1	2
(11)－1 ※「利用したことがある」と回答した方のみ それは、市内の機関ですか。市外の機関ですか。			1. 市内 2. 市外	
(12)不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセリングルーム 課題や悩みを抱えている子ども・若者に対して、相談支援や学習支援、生活訓練等を行っている民間団体や民間施設があります。（その団体によって、対象者や活動内容は異なります。）	1	2	1	2
(12)－1 ※「利用したことがある」と回答した方のみ それは、市内の機関ですか。市外の機関ですか。			1. 市内 2. 市外	

あなたご自身やご家族の状況についてお尋ねします。

問9 以下の(1)～(3)について、あなたのご家族の状況に最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない
(1)親子やきょうだいの間でよく会話をしている。	1	2	3	4	5
(2)近所づきあいを大事にしている。	1	2	3	4	5
(3)地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している。	1	2	3	4	5

問10 以下の(1)～(4)について、あなたご自身の状況に最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない
(1)趣味や生きがい、生活の楽しみがある。	1	2	3	4	5
(2)悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる。	1	2	3	4	5
(3)人づきあいが苦手である。	1	2	3	4	5
(4)自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる。	1	2	3	4	5

問11 若年者の様々な課題や町田市での取り組み等について、ご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

最後に、あなたご自身についてお尋ねします。

問12 あなたの性別をお聞かせください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問13 あなたの年齢は、次のどれにあたりますか？(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 20～24歳 | 6. 45～49歳 |
| 2. 25～29歳 | 7. 50～54歳 |
| 3. 30～34歳 | 8. 55～59歳 |
| 4. 35～39歳 | 9. 60歳以上 |
| 5. 40～44歳 | |

問14 あなたの就業状況は、次のどれにあたりますか？(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 1. 常勤（正規の社員、職員、会社役員、従業員など） | 4. 主婦・主夫 |
| 2. 非常勤（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託など） | 5. 学生 |
| 3. 自営業 | 6. 無職・その他 |

問15 あなたのご家族の構成は、次のどれにあたりますか？(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|----------|
| 1. 単身（一人世帯） | 4. 三世代世帯 |
| 2. 夫婦のみの世帯 | 5. その他 |
| 3. 二世代世帯（親と子どもからなる家族） | |

問16 子育ての経験はありますか？(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問17 あなたのお住まいの形態は、次のどれにあたりますか？(○は1つ)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 持ち家（一戸建て・共同住宅含む） | 3. 社宅・官舎・寮 |
| 2. 賃貸住宅（一戸建て・共同住宅含む） | 4. その他 |

問18 あなたの家の暮らし向き(衣食住レジャーなどの物質的な生活水準)は世間一般と比べてみて、どれにあたると思われますか。あなたの実感に近いものをお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 上の上 | 4. 中の上 | 7. 下の上 |
| 2. 上の中 | 5. 中の中 | 8. 下の中 |
| 3. 上の下 | 6. 中の下 | 9. 下の下 |

問19 あなたのお住まいの地区をお選びください。(1~5の地区名に1つだけ○をつけてください。)

地区名	町名	地区名	町名	地区名	町名
1. 堺地区	相原町	3. 鶴川地区	大蔵町	4. 町田地区	旭町
	小山町		小野路町		玉川学園
	小山ヶ丘		金井		中町
2. 忠生地区	小山田桜台		金井町		原町田
	上小山田町		真光寺		東玉川学園
	木曽町		真光寺町		本町田
	木曽西		鶴川	南大谷	
	木曽東		野津田町	森野	
	下小山田町		能ヶ谷	5. 南地区	小川
	図師町		広袴		金森
	忠生		広袴町		高ヶ坂
	常盤町		三輪町		つくし野
	根岸町		三輪緑山		鶴間
根岸	薬師台	成瀬			
矢部町		成瀬が丘			
山崎町		成瀬台			
山崎		南つくし野			
			南成瀬		

※町名変更のあった地域にお住まいの方は、このアンケートが到着した時点での地区について、ご回答ください。

— ご協力ありがとうございました —

町田市 若年者の自立に関する調査

【民生委員・児童委員向け調査】

－ 調査ご協力のお願い －

民生委員・児童委員の皆様には、平素から市政にご協力とご理解を頂き深くお礼申し上げます。近年、若年者の自立の問題が深刻な社会問題として取り上げられるようになってきました。ひきこもり*、ニート**など様々な課題や困難を抱える若年者が全国的に増加している、といわれています。

東京都の推計によると、15歳～34歳でひきこもりの状態にある方は、都内に少なくとも2万5千人以上いる、といわれています。

町田市保健所では、1999年度に思春期の精神専門医相談を始めて以来、ひきこもりの状態にあるご本人及びご家族に対して支援を行ってきました。10年以上にわたる支援の中で、問題が深刻化してからの相談が多いこと、相談が長期化しており対象者の年齢の幅が広いこと、保護者の高齢化が問題になっていること等、様々な状況が見えてきました。課題を抱えている若年者を支援していく環境づくりと共に、早期に支援につないでいく仕組みを構築することが必要です。

町田市では、「町田市新5ヵ年計画（2012年度～2016年度）」の重点事業として、「ひきこもり者支援体制推進事業」を位置づけ、今年度より重点的に取り組んでいます。

本調査は、町田市内で活動されている民生委員・児童委員の方の「若年者の自立」とりわけ「ひきこもり」についての相談状況やお考えをお聞きし、今後の施策展開の基礎資料とするものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2012年10月

町田市長 石阪 丈一

【お問い合わせ先】

町田市いきいき健康部 保健対策課(町田市保健所)

〒194-0021 町田市中町2丁目13番3号

電話:042-722-7636 FAX:042-722-3249

e-mail:ikiiki080@city.machida.tokyo.jp

【アンケートに関するお願い、記入の要領など】

◇この調査票は、民生委員・児童委員の方ご本人がご回答ください。

◇回答は、統計処理に用いるもので、個人情報としての利用や、個人にご迷惑をおかけすることはありません。

(住所や氏名のご記入は必要ありません。)

◇ご記入後、調査票を同封の返信用封筒に入れて、2012年10月31日までに投函してください。切手を貼る必要はありません。

◇本調査でいう「若年者」「若者」とは、実際にひきこもりの相談が多い10歳代～40歳代の方を想定しています。

*「ひきこもり」…仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態をいう。(他者と関わらない形での外出をしている場合も含む。)

**「ニート」…学校に通学せず、独身で、収入を伴う仕事をしていない15～34歳の個人(若年無業者)のうち、「就職したいが就職活動していない」または「就職したくない」者をいう。

若者の自立に関する相談の状況について、お尋ねします。

問1 概ね過去1年間の活動の中で、(1)～(2)について、あてはまることがありましたか。

(1)相談や情報提供は受けていないが、担当地区に「ひきこもり」の傾向にあると思われる方がいる。	1 はい	2 いいえ
---	------	-------

(1)－1 「はい」の場合、「ひきこもり」の傾向にある方の人数を、性別・年齢層ごとにご記入ください。
(年齢がわからない場合は、概ねの年齢でご記入ください。)

	男性	女性
1. 10歳代 (小・中学校在籍)	人	人
2. 10歳代 (中学校卒業後)	人	人
3. 20歳代	人	人
4. 30歳代	人	人
5. 40歳代	人	人
6. 50歳代以上	人	人

(2)「ひきこもり」又は、「ひきこもり」の傾向にある方に関する、相談・情報提供を受けたことがある。	1 はい	2 いいえ
---	------	-------

(2)－1 「はい」の場合、ひきこもり状態と思われる方の人数を、性別・年齢層ごとにご記入ください。
(年齢がわからない場合は、概ねの年齢でご記入ください。)

	男性	女性
1. 10歳代 (小・中学校在籍)	人	人
2. 10歳代 (中学校卒業後)	人	人
3. 20歳代	人	人
4. 30歳代	人	人
5. 40歳代	人	人
6. 50歳代以上	人	人

「ひきこもり」に関する相談・情報提供を受けたことがある方に、お尋ねします。

※問1の(2)で「はい」と回答された方にお尋ねします。

問2 「ひきこもり」に関する相談は、どなたからの相談・情報提供でしたか。

()内は具体的な機関名をご記入ください。(○はいくつでも)

1. ご家族からの相談	5. 行政機関からの相談・情報提供 ()
2. 近隣の方からの相談・情報提供	6. 交番・警察・消防からの情報提供
3. 自治会・町内会からの相談・情報提供	7. その他 ()
4. 教育機関からの相談・情報提供 ()	

問3 あなたはその相談を受けてから、どのように対応しましたか。(○はいくつでも)

1. 訪問や電話相談を行った(行っている)	4. 自治会・町内会の役員に相談した
2. 行政機関、専門機関に相談した	5. その他 (具体的に:)
3. 他の民生委員・児童委員に相談した	

問4 「ひきこもり」の相談を受ける上で、あなたが困ったこと、課題と感じたことがあれば、具体的にご記入ください。

例: どこに相談してよいかわからない、どのように対応すればよいか悩む等、率直なご意見をお聞かせください。

「ひきこもり」等に関する相談支援機関やサービスについてお尋ねします。

問5 あなたは、下記の機関に、対象の方や家族について相談したことがありますか。(○はい/×でも)

1. 町田市保健所	9. 東京都精神保健福祉センター
2. 町田市子ども家庭支援センター	10. ハローワーク
3. 町田市教育センター・教育相談	11. 地域若者サポートステーション
4. 町田市内の学校の適応指導教室	12. 病院・診療所
5. 1～4以外の市役所の担当課 (具体的に：)	13. 民間の支援団体やカウンセリングルーム
6. 町田市社会福祉協議会	14. その他 (具体的に：)
7. 東京都ひきこもりサポートネット	15. いずれの機関にも相談したことはない
8. 東京都の児童相談所	

問5-1 問5の機関に相談したことがある方にお尋ねします。あなたが相談した際の対応について、ご意見・ご感想がありましたら、ご記入ください。どの機関についてのご意見か、問5の番号をお書きください。

機関(番号)	ご意見・ご感想

問6 若者の自立支援に関わる、地域ならではの取組み(地域の中の居場所、支援活動など)があれば教えてください。

次に、「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援についてお尋ねします。

問7 以下の(1)～(16)について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	少し そう思う	あまりそう思 わない	そう思わな い	どちらとも いえない
(1)「ひきこもり」の問題に関心がある。	1	2	3	4	5
(2)「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである。	1	2	3	4	5
(3)「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う。	1	2	3	4	5
(4)「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う。	1	2	3	4	5
(5)「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う。	1	2	3	4	5
(6)現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う。	1	2	3	4	5
(7)「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う。	1	2	3	4	5
(8)「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする。	1	2	3	4	5
(9)「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う。(相談体制の充実や、自立に向けた支援など)	1	2	3	4	5
(10)「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う。	1	2	3	4	5
(11)「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う。	1	2	3	4	5
(12)不登校*2から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う。	1	2	3	4	5
(13)「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う。	1	2	3	4	5
(14)「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う。	1	2	3	4	5
(15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある(相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等)。	1	2	3	4	5
(16)ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていきたいと思う。	1	2	3	4	5

「不登校」*2…年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者」

「ひきこもり」の支援に関して、今後の活動意向についてお尋ねします。

問8 ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待することは何ですか。(〇はいくつでも)

1. ひきこもりの支援に関する情報提供を行ってほしい(支援の具体的な方法や、専門機関の紹介など)
2. ひきこもりに関する勉強会や講演会に参加したい
3. ひきこもりに関するネットワーク会議などがあれば参加したい
4. その他(具体的に: _____)

問9 若年者の様々な課題や町田市取り組み等について、ご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

問10 あなたの担当地区は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 町田第一地区 | 6. 鶴川第二地区 |
| 2. 町田第二地区 | 7. 忠生第一地区 |
| 3. 南第一地区 | 8. 忠生第二地区 |
| 4. 南第二地区 | 9. 堺地区 |
| 5. 鶴川第一地区 | |

問11 あなたの民生委員・児童委員歴は何年ですか。

年

— ご協力ありがとうございました —

社会資源調査票

記入日 年 月 日
記入者氏名

医療 機関名							
所在地							
電話				E-mail			
FAX				HP アドレス			
受診 形態	通院	入院	往診	電話	その他の方法		
診療 時間	予約方法:						
		月	火	水	木	金	土 日
	午前						
	午後						
診療 内容	診療科目: 対象年齢: 対象疾患:						
	一般精神	認知症	アルコール	薬物	発達障害	思春期	てんかん その他
	項目	有 無	具体的内容	特に力を入れていること:			
	カウンセリング	有 無		取り扱わない分野			
	訪問診療	有 無					
	専門外来	有 無					
	デイケア	有 無					
	訪問看護	有 無					
	家族教室	有 無					
心理検査	有 無						
家族の相談	有 無						
その他	有 無		今後連絡をするにあたってのポイントなど(窓口・時間など)				
相談 窓口	医療相談室 PSW その他	有 無		講師依頼(講演会)について (可 ・ 否)			
費用	各種保険 自費	自立支援医療	生活援護	得意分野: 医師名:			
アクセス・地図				駐車場 (有 ・ 無) コインパーキング (有 ・ 無) 患者送迎バス (有 ・ 無)			

訪問調査日:2012年 月 日 調査対応者名()

● 地区の特徴・医療機関が捉える地域の状況、印象など。

※一般科医療機関からの紹介件数(年間) 件
一般科疾患ある場合の連携状況(ex,紹介状発行し他科紹介)年間 件
一般科との連携に関して日ごろ困っていることや意見:

急患依頼があった場合の対応:

● 思春期の相談状況など

・若年層の受診は何歳くらいから受け付けているか
 小学生 中学生 15歳~18歳 18歳~20歳
・どこから紹介されたか
 教育相談センター 学校 その他()
・主訴はどのようなものが多いか
 リストカット過量服薬などの自傷行為 自殺企図 その他
・20歳以下の受診でみられる疾患はどのようなものか
 発達障がい() 不安障害 強迫性障害 統合失調症
 摂食障害 気分障害 自閉症 知的障害
 人格障害 てんかん その他
・相談の経緯について(本人の受診パターン)
 親から 家族から その他() 本人のみ 親のみ
・ひきこもりと思われる本人、親からの年間相談件数について
本人からの相談(件) 親からの相談(件)
・今後ひきこもりの方の相談をうけることは可能か 可能 不可能
・家族相談の可否について 可能 不可能

● 町田市保健所に期待することや要望など